

## ● そ の 他 ●

# 英文論文「Psychosocial mediators between socioeconomic status and dietary restrictions among patients receiving hemodialysis in Japan」の要旨、解説と血液透析患者実態調査検討ワーキンググループの活動の紹介

篠田俊雄

key words : 血液透析患者実態調査, 社会経済的状況, 心理社会的規定因子, 食事療法遵守状況

## 活動の紹介

日本透析医会の血液透析患者実態調査検討ワーキンググループは昨年から、全国腎臓病協議会、透析医療研究会と共同で血液透析患者実態調査を5年ごとに行う活動をしている。この調査は1972年以来2016年度調査までは、全国腎臓病協議会、透析医療研究会と(一財)統計研究会の共同で行ってきたが、(一財)統計研究会の解散に伴い、日本透析医会腎不全対策委員会CKD(慢性腎臓病)対策部会の事業のひとつとして血液透析患者実態調査検討ワーキンググループとして2021年度調査の準備を行っている。

本ワーキンググループの事業のひとつとして、2016年度の血液透析患者実態調査の調査結果のデータを2次解析して英文論文にまとめたので、その要約と解説を紹介する。これまでも過去の実態調査の2次解析により、下記の論文を発表してきている。

- Sugisawa H, Shinoda T, Shimizu Y, Kumagai T, Sugisaki H. Unmet service needs evaluated by case managers among disabled patients on hemodialysis. *International Journal of Nephrology and Renovascular Disease* 2018; 11 : 113-123.
- Sugisawa H, Shimizu Y, Kumagai T, Sugisaki H, Shinoda T. Barriers to effective case management for disabled patients on hemodialysis. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2018; 22 : 133-141.
- Sugisawa H, Shimizu Y, Kumagai T, Sugisaki H, Ohi-

ra S, Shinoda T, Earthquake preparedness among Japanese hemodialysis patients in prefectures heavily damaged by the 2011 Great East Japan Earthquake. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2017; 21 : 334-344.

## 英文論文の要旨と解説

### 論文名

Psychosocial mediators between socioeconomic status and dietary restrictions among patients receiving hemodialysis in Japan

### 掲載雑誌

*International Journal of Nephrology*, Volume 2019, Article ID 7647356, 9 pages, <https://dot.org/10.1155/2019/7647356>

### 著者名

Sugisawa H, Shinoda T, Shimizu Y, Kumagai T, Sugisaki H.

杉澤 秀博 桜美林大学大学院老年学教授・透析医療研究会研究代表者。

篠田 俊雄 つくば国際大学医療保健学部医療技術学科教授・日本透析医会慢性腎臓病対策委員会委員長。

清水由美子 東京慈恵会医科大学医学部看護学科講

師・透析医療研究会委員。

熊谷たまき 大阪市立大学医学部看護学科教授・透析医療研究会委員。

杉崎 弘章 医療法人社団心施会会長・日本透析医学会監事。

要 旨

社会経済的状況が食事療法（制限）遵守に及ぼす影響とそれら両者の関連を説明する要因については不明な点が多い。われわれはそこで、わが国の透析患者における食事療法の遵守レベルに対する社会経済状況の違いによる影響と両者の関連を説明する心理社会的要因を解析した。対象は外来血液透析患者6,644名（平均年齢66.5歳，男性が65%）である。食事療法遵守レベルは患者調査に基づく自己申告と血液検査結果による客観的指標（主治医への調査によって把握）からの2側面から評価し，社会経済状況は患者調査に基づき教育レベル（最終学歴）と世帯収入により把握した。心理社会的要因として，自己効力感，成果期待，社会的支援の3種類を用いた。社会経済状況が3種の心理社会的要因を介して食事療法遵守レベルに対して及ぼす間接的影響は多変量解析により分析した。自己申告による食事療法の遵守レベルについては教育レベルが高いほど有意に高いものの，世帯収入については高いほど有意に低かった。客観的指標による食事療

法の遵守レベルについては社会経済状況による差は有意でなかった。教育レベルと食事療法の遵守レベルとの関連には，自己申告と客観的指標により評価された遵守レベルのいずれに関しても，自己効力感や成果期待という心理的要因が媒介していた。世帯収入による影響については社会的支援という社会的要因が媒介していた。社会経済的状況による食事療法の遵守レベルの差を解消するためには，自己効力感，成果期待，社会的支援を含む心理社会的要因を調整することが必要と考えられる。

COI 開示

本論文に関して開示すべき COI はない。

解 説

社会経済状況，心理社会的規定因子，食事療法遵守状況の3者の間の関連を社会学的に解析した結果を図1，2に示す。

自己申告による食事療法の遵守に関しては，高教育レベルの患者では食事療法が遵守されていたが，高世帯収入の患者では食事療法遵守が悪い傾向がみられた。検査結果による客観的評価では，教育レベルや世帯収入と食事療法遵守の間に有意な傾向はみられなかった。社会経済状況と食事療法の遵守レベルとの関連を説明する心理社会的要因の分析では，高教育レベルの患

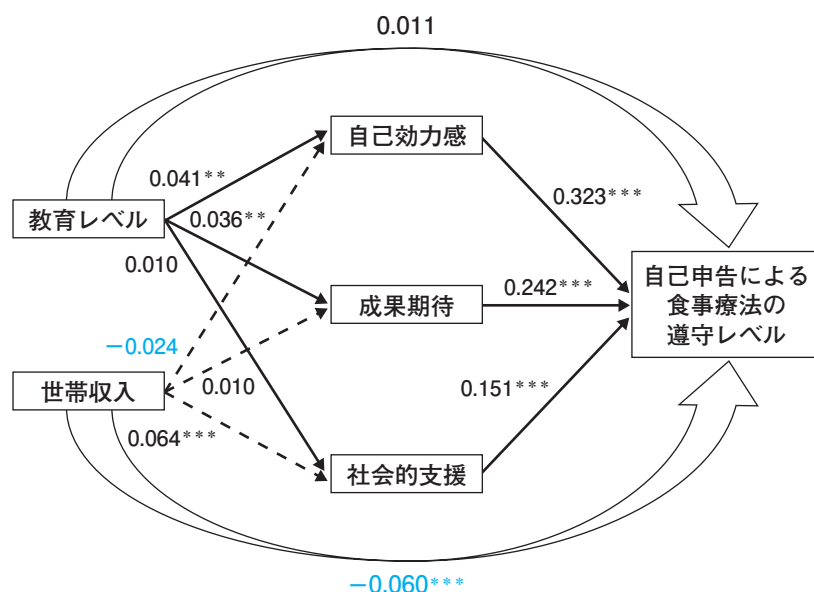


図1 自己申告による食事療法の遵守レベル

図中の数値は相関係数を示し，正数は陽性関連，負数は陰性関連を示す。

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001.

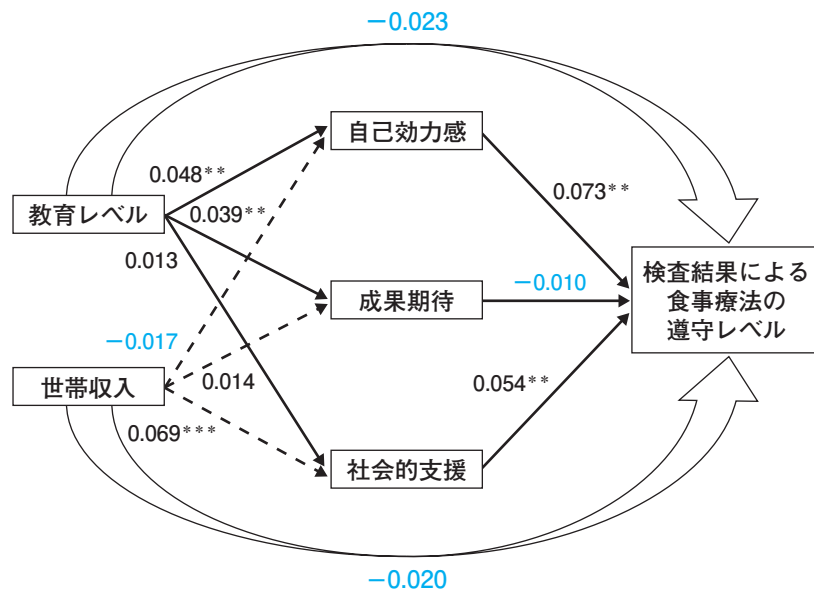


図2 検査結果による食事療法の遵守レベル

図中の数値は相関係数を示し、正数は陽性関連、負数は陰性関連を示す。

\* $p < 0.05$ , \*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$ .

者では自己効力感や成果期待が関連していた。すなわち、高教育レベルの患者では必要な食事療法を自分で行うことができるという確信をもつことで食事療法がうまく守られていると考えられる。高世帯収入の患者ではこのような心理社会的要因が働かず、食事療法があまり守られないものと考えられる。低世帯収入の患者では社会的支援により食事療法遵守が改善する傾向も認められたが、逆に高世帯収入の患者では食事療法があまり守られないため、全体としては世帯収入と食事療法遵守レベルとの間に相関がなくなったものと推測される。

#### 図中用語解説

- 教育レベル (Education) : 最終学歴により階層化し

た。

- 世帯収入 (Income) : 患者の就労率が低いいため所属する世帯の収入により階層化した。
- 自己効力感 (Self-efficacy) : 自分が必要な行動をうまくできる自信。
- 成果期待 (Control expectance) : 必要な行動を行うことで期待するような結果が得られると考えること。
- 社会的支援 (Social support) : 家族や社会資源による支援。